

秋の文化講演会

# 上方絵の世界



浮世絵は江戸時代に生み出された日本独自の文化で、その芸術性の高さは、ヨーロッパのジャポニズムと相まって高く評価されました。浮世絵は出版された土地から「江戸絵」「上方絵」と呼ばれましたが、「上方絵」は、風景画や美人画が多い「江戸絵」と比較して、役者絵の比率が圧倒的に高い特徴があります。

また、大坂と京都では、錦絵と肉筆画という差異が認められ、「浪速錦絵」は個性豊かな表現力から、海外から「Osaka Prints」と呼ばれ、独自性の高い芸術として評価されました。

このように江戸時代は、京都・大坂・江戸にそれぞれの文化的特徴が認められます。今回の講演会では、「上方絵の世界」と題して、「上方絵」の持つ独自性を最新の研究成果を交えてお話しして頂きます。

講師 **北川 博子**さん あべのハルカス美術館  
主任 研究員

2016年 **11**月 **5**日(土曜日)

大阪府立中央図書館 2階 **大会議室**

**開場** 13:30

**開演** 14:00

**申込方法**  
定員

**申込不要**  
先着 70名(無料)

【主催】  大阪府立中央図書館